

2025年度 静進情報高等専修学校
自己点検・評価項目および評価報告書

1. 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	④ 3 2 1			時代に合っているか、を意識しながら、変えところは変える、変えないところは変えない、という姿勢が必要。青少年の育成という本質を忘れてはいけない。
教育目標は卒業時の到達が読みとれるものになっているか	④ 3 2 1			
教育理念並びに教育目標は定期的に見直されているか	④ 3 2 1			
教育理念並びに教育目標が教職員・生徒に浸透しているか	④ 3 2 1			

2. 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
カリキュラムは教育目標が反映されているか	4 ③ 2 1	柔軟に対応できるようなカリキュラムを組んでいるが、生徒の習熟度の幅が広く、学習以前の生活面において問題を抱える生徒もおり、全てを満たすことは難しい。	今、その生徒が何を求めているのか、を敏感に察知し、提供できる感性を磨くことが重要。また、生徒を最終的にどこに導きたいのかというビジョンを持ち、常に軌道修正していく姿勢を徹底する。	人員の問題もあるので、全てをやるわけではない。優先順位を間違えず、やっていくことが大切。
定期的なカリキュラムの見直しが行われているか	④ 3 2 1			担任制の意識を薄めていく方向が良いだろう。
テキストや教材は適切なものを選定しているか	4 ③ 2 1	選定教科書に依存することなく、オリジナルの教材作りにも力を入れてきたが、教科担当者のマンパワーに頼っている部分も大きい。引き続き、研究・改良が必要な分野である。	教科担当者の専門的な知識の深化や学びの喜びを引き出すための手法を研究し、生きた教材作りに反映させていくことが求められる。教員が常に勉強していく姿勢を作っていく。	静進情報高等専修学校から入学してきた生徒は、パソコンの操作スキルがかなり高いレベルで身に付いている。
授業の点検・評価が適切に実施されているか	4 3 ② 1	人手不足も相まって、授業研究や定期的な点検・評価というところまではなかなか手が回らない。	現状の授業スタイルに満足してしまっている面もある。常に生徒たちの意欲や探求心に応えていける準備をしていく。	
資格試験の合格率は	4 3 ② 1	PC関連の受験者数、合格率は上昇してきたがまだまだ。漢字検定や英語検定の受験者が伸びない。運転免許は入校者、取得者共に多かった。	資格取得に向けた教員の熱意と理解を高めていく必要がある。検定指導の手続きが煩雑にならないような仕組みを確立していく。	
資格試験不合格者の対策は	4 ③ 2 1	幸いに不合格者はかなり少なかった。合格安全圏に入らないと受験しない本校の生徒の気質があると思う。	失敗を恐れず挑戦する姿勢を育てることも平行して行っていく。	
評価は適切な方法で行われているか	④ 3 2 1			
目標に到達しない生徒に対し適切なフォローが行われているか	4 3 ② 1	不登校生の場合、精神的な面で課題を抱えている子もおり、学習面でのフォローまで到達できていないケースもある。	教育と医療との範囲をしっかりと分別し、生徒への適切な対応をとっていく必要がある。	
進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	④ 3 2 1			

3. 生徒受入

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
生徒募集のための資料の表現・内容並びに募集活動の方法・時期は適切か	4 ③ 2 1	乱立する通信制高校、少子化による母数の減少、と学校を取り巻く環境は厳しさを増している。	これからも必要とされる学校作りを続けていくしかない。	<p>学資校が進路希望をまとめ、進路指導の先生が中心となって進めていく、という従来のやり方が変わってきている。個々人のスマホから資料請求、学校見学、出願ができる時代。意識を変えていく必要はある。HPの充実が必要不可欠である。</p> <p>中学校の先生たちも世代交代が進み認知度の逆転現象が起き始めている。今までの先生は高等専修学校は知っているが、通信制高校には懐疑的。若い先生たちは、通信制高校は身近であるが、高等専修学校を知らない。</p>
入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	④ 3 2 1			
募集要項の内容は適切か	④ 3 2 1			
学校見学会の時期、内容は適切か	④ 3 2 1			
入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	④ 3 2 1			
志願者状況、定員充足率はどうか	4 3 ② 1	卒業生徒分をほぼ補うことができた。現状としては90名だが、100名程度までは持っていきたい。	見学者の入学率が上がった。今後も丁寧な説明を心掛けていく。できることとできないことをしっかりと伝えることがとても大切だと思う。	
中途退学の理由・実状を適切に把握しているか	④ 3 2 1			

4. 教職員組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
専任教員は設置基準を満たしているか	④ 3 2 1			今後ますます人手不足が加速していく中で魅力ある職場を作っていかなければならない。
専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	④ 3 2 1			
教職員の業務分掌は明確になっているか	④ 3 2 1			
教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4 ③ 2 1	管理者が定期的に各々の教員と面談をし、資質向上に向けて具体策を助言しているが、まだ不足も目立つ。	現状維持ではなく、向上を目指して実施していくしかない。	教員の負担を軽減するにあたり、必ずやらなければならないこと、優先する事などの選別が今後の課題となる。
教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	4 ③ 2 1			
職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4 ③ 2 1	社会全体に言えることだが、教員の人手不足感は否めない。	職場の魅力をどう発信していくか。	

5. 施設・設備等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	関係者からの意見	
教室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	④ 3 2 1		まずは安全な維持管理。	
実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	4 ③ 2 1			
実習設備は整備されているか	4 ③ 2 1	理科実験室・家庭科室などが望まれるが、現状としては困難。		安全面等を第一に考え、可能な範囲で整備していく。
教室・実習室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1			
生徒が自学自習できる教室を有しているか	④ 3 2 1			
保健室は適切に整備されているか	④ 3 2 1			
教育用機器備品は整備されており活用されているか	④ 3 2 1			
職員室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1			
事務室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1			

6. 生徒生活支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
生徒と相談する体制が整備・機能しているか	④ 3 2 1			生徒たちは大人と同等の力を持っているので、被災の際は受け身ではなく、助ける側に回れるような意識を持たせていくことも必要だろう。
各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	④ 3 2 1			
防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	4 ③ 2 1	巨大地震が起きた場合、災害対策が万全とは言い切れない。	少しでも想定外を減らし、常に危機意識を持つ。	
進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	4 ③ 2 1	生徒の特質上、経済的に進学が無理となった場合、企業への就職内定に至らないケースがある。	それぞれの価値基準があるので、新卒で内定、という事が全てではないが、社会とのつながりを求める姿勢は育てていきたい。	

7. 管理・運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	現状の問題点	改善のための方策	関係者からの意見
消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	④ 3 2 1			常に点検を。
個人情報保護法を遵守しているか	④ 3 2 1			
セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	④ 3 2 1			

以上、本校の教育研究活動等の状況について報告します。

静進情報高等専修学校自己点検・評価委員会 委員長